

第 17 回小諸新校再編実施計画懇話会

日時：令和 5 年 11 月 29 日（水）

18 時 00 分～19 時 30 分

会場：小諸市庁舎第 1 ・第 2 会議室

<次 第>

1 開 会

2 挨 拶

3 新構成員自己紹介

4 会議事項

(1) 第 16 回小諸新校再編実施計画懇話会のまとめ

(2) 地域説明会の実施状況について

(3) 開校に向けた検討事項の進捗状況について

(ワーキンググループ進捗状況、学校視察)

(4) 「新しい普通科」について

5 その他

<次回の予定>

第 18 回小諸新校再編実施計画懇話会

(日時) 2 月～3 月 (予定)

(会場) 未定

(内容) 検討事項の進捗状況について 等

6 閉 会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

(目的)

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」(以下、「懇話会」という。)を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条令により設置された附属機関ではないものとする。

(会議事項)

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- (1) 学校像、教育方針等に関すること
- (2) 校地・施設・設備等に関すること
- (3) 管理運営等に関すること
- (4) 教育内容等に関すること
- (5) その他、県教育委員会が必要と認める事項に関すること

(構成員)

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者(校長、教職員等)、地域の代表(自治体関係者、産業界の代表等)、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

(開催期間)

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

小諸新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

※○印は新構成員

	区分	氏名	所属等
1	自治体	田中 尚公	小諸市 副市長
2		山下 千鶴子	小諸市教育委員会 教育長
3		宮本 隆	北佐久郡町村教育委員会連絡協議会 会長
4	産業界	塩川 秀忠	小諸商工会議所 会頭
5		新津 伸太郎	小諸青年会議所 理事長
6		清水 信	(株)かのを屋 代表取締役
7	学識経験者	西村 廣一	元小諸高校・小諸商業高校 校長
8	地域	甘利 庸子	のぞみグループ 代表取締役社長
9		原 啓明	佐久地域振興局 局長
10	同窓会	高見澤 敏光	小諸商業高等学校同窓会 特別顧問
11		鷹野 昭裕	小諸高等学校同窓会 会長
12	P T A	臼田 明美	小諸商業高等学校P T A 会長
13		伊藤 美保	小諸高等学校P T A 会長
14		西田 祐恒	小諸市P T A連合会 会長
15	学校関係者	深沼 浩	小諸市校長会 会長
16		相原 修	小諸市内中学校代表 校長
17	再編対象校	○伊藤 樹里	小諸商業高等学校 生徒会長
18		○水澤 明夢	小諸商業高等学校 生徒会副会長
19		○菊池 柚葉	小諸高等学校 生徒会長
20		○村瀬 光海	小諸高等学校 生徒会副会長
21		坂口 健之	小諸商業高等学校 校長
22		原 周一郎	小諸商業高等学校 教諭
23		井村 敏明	小諸高等学校 校長
24		木住野 修平	小諸高等学校 教諭

事務局

小諸商業高等学校		小諸高等学校		高校再編推進室	
辻 隆秀	教頭 (事務局長)	細萱 裕樹	教頭 (副事務局長)	柳澤 弘蔵	主幹指導主事
原 周一郎	教諭	木住野 修平	教諭	原 多恵子	主任指導主事
大槻 高範	教諭	大澤 佑介	教諭		
植原 崇裕	教諭	井出 玲子	教諭		
郷津 祐介	教諭	坂口 俊夫	教諭		

第 16 回小諸新校再編実施計画懇話会まとめ（案）

日時	令和5年（2023年）9月4日（月）18時05分～19時40分		
会場	小諸市庁舎 第1・第2会議室		
出席	懇話会構成員 20名（うち1名はオンライン参加）		
欠席	懇話会構成員 4名	傍聴者	傍聴 6名（報道3社）
事務局	小諸商業高校	辻教頭（事務局長）、大槻教諭、植原教諭、郷津教諭	
	小諸高校	細萱教頭（副事務局長）、大澤教諭、井出教諭、坂口教諭	
	県教育委員会	柳澤主幹指導主事、池田担当係長、原主任指導主事	
当日資料	○次第、開催要項、構成員名簿、第15回懇話会まとめ、施設整備基本計画、ワーキンググループ進捗状況、地域説明会		

会議事項

- (1) 第15回懇話会まとめ、(2) 施設整備基本計画について、(3) 開校に向けた検討事項の進捗状況について（ワーキンググループ進捗状況、単位制・2学期制、プレ企画、服装）(4) 地域説明会について

意見交換（要旨）

【プレ企画について】

◆学び（3科の生徒が一緒になって考える探究学習）

○今から着手するのか。（できたら面白いが）

→探究学習の形が両校で違うため、すぐにすり合わせるのは難しいが、両校の1年生が小諸市のフィールドワークに取り組んでいるので情報交換はできる。今、できるところから考えていきたい。

○アイデアや方向性はよいと思うが、そのコーディネート等、実際にどう進めるかが大変だという印象。

→今までになかった授業をする場合、先生方の授業をプロデュース、マネジメントする立場の先生が必要。その仕組みづくりも、ワーキンググループをとおして検討していきたい。

○（資料8頁Aの③に）「売上への影響を考える」とあるが、企業側から見ると、（売上げが落ちると）死活問題となる会社もある。こうしたことをする場合は、後のフォローも考えた上で、経済界の人間も含めて考えていただくと助かる。

○先生から与えられた課題を解決していくのか、生徒が見つけた課題を解決していくのか。

→教員からテーマを与えるのも一つの方法だが、3年生になったら、自分たちで課題を発見し、自分たちで解決していく形になるよう、プログラムを作っていきたい。

◆地域連携

○（軽井沢高校視察報告を受けて）軽井沢町は、かなり行政が踏み込んでいると思う。その全てを小諸市で対応できるとは思っていないが、行政面でも、生徒さんの背中を押せるような、よりよい体制づくりに取り組みたい。

○小諸市が取り組んでいる「まちタネ広場」を使ったイベントを早い段階から活用し、高校生が参加していくのは見えやすく、わかりやすい。

○コーディネーターの存在が何より大事。学校の先生以外に小諸市にもご尽力いただき、先生と連携しながら、進めていくのがよいと思われる。

◆行事

○商業科で学習したことを実践する場であるスマイル小商店街や小高連携を継続して欲しい。

○総合大学の各学部の教授に講義をしてもらい、いろいろ学ぶなかで、生徒が何を学びたいか考える時間をとってはどうか。

【服装について】

○服には相当お金がかかる。部活の服や私服に加え、入学式にふさわしい服装も必要。新校では統一したものがよいのでは。

○入学式とか卒業式には、統一した服装の方がよい。標準服の考え方でいけばよいのでは。

小諸義塾高等学校（仮称）地域説明会記録

県教育委員会・小諸商業高等学校・小諸高等学校

1 日時・場所・参加者数

日時	場所	参加者数				
		中学生	保護者	一般	報道	計
11/2(木) 18:30~19:55	佐久平交流センター 第5会議室	5	9	6	1	21
11/6(月) 18:30~19:45	上田市中央公民館 大会議室	1	6	3	0	10
11/7(火) 18:30~20:00	小諸市市民交流センター ステラホール	12	21	27	4	64

2 質疑応答・意見要望（要旨）

(1) 質疑応答

（施設整備に関すること）

- ・工事に伴う騒音や振動の影響について
→ 現在そこで学ぶ生徒の学習を保證できるよう、設計チームと検討を進めている。
- ・現小諸高校の跡地利用について
→ 小諸市の要望等も踏まえ、県の財産活用課が中心となって検討を進めている。
- ・FLA（フレキシブルラーニングエリア）について
→ 生徒が過ごしやすい空間、新しい学びの形を実現するためのスペース。3科の融合を図るため、3科の生徒が自然と交じり合う仕掛けをつくっている。冷暖房については、保温効果や断熱効果等について業者が考えてくれている。
- ・音楽科の学びの環境について
→ 音楽ホールや音楽科の生徒が学ぶ場として音楽棟を新たに作る計画である。
- ・地域連携に関わる校内の防犯システムについて
→ 地域の方との活動時間帯や校舎内での活動範囲などこれから検討していく。

（学びに関すること）

- ・学科の枠を超えた授業形態について
→ 各科で修得すべき科目に加え、柔軟な科目選択ができるように検討している。
- ・令和8年度3学年の学科やカリキュラムについて
→ 入学時の学科やカリキュラムのまま3学年までいくことになる。
- ・単位が取れなかった場合の対応について
→ 県内での先行事例も参考に、どのような方法が適切なのか検討していきたい。
- ・45分授業にした理由
→ 2学期制の導入と合わせ、トータルの授業時間数は45分授業の方が多く確保できる。

（2学期制について）

- ・全県での導入なのか、他校でもやっているのか。

→ 全県一斉にというわけではない。近隣では、岩村田高校も2学期制である。

・2学期制に伴う長期休業について

→ 前期の途中に夏休みがある。長期休業は今まで通りの時期にある。

(服装等について)

・標準服のメリットについて

→ TPOに合わせた服装を生徒が考えることも大切である。普段から着てもらえるような標準服を考えていきたい。

・ジャージは制服のように変わるのか

→ 体育ジャージは両校共通したものに変わる。令和6年度から揃えたいと考えている。

・上下履きの区別について

→ 上履きなしという方向で考えている。

(クラブ・生徒会活動に関すること)

・クラブの統合チームについて

→ 高体連では令和6年度から統合チームでの活動が認められている。クラブの状況により統合の時期は異なる。

・音楽科は合唱部か管弦楽部に所属するようだが、吹奏楽部はなくなってしまうのか。

→ 音楽科の管弦楽専攻の生徒は吹奏楽部を兼部出来るため、吹奏楽部はなくなるならない。

・両校生徒会について

→ 現在の小諸高校の組織をベースに整えていきたい。

(その他)

・小諸義塾高等学校の名前の由来について

→ かつて小諸では私塾として小諸義塾という学校があり、地元の方にとっては特別な想いのある校名である。公募で多数応募を頂いた中からその想いを受ける形で決まった。

・令和8年度入学生と2、3年生との一体感について

→ 統合では前の学校の生徒と新しい学校の生徒が混在する時期が必ずある。学校の諸活動を通して小諸義塾高校としての一体感を出していきたい。

・新しい学びに対する教員定数について

→ 新校の教育課程を踏まえ、新しい学びに必要な教員定数を考えていきたい。

・新校でターゲットとする生徒層について

→ 探究学習を深めながら進学できる方向性を考えていきたい。新しい学びを活かした進学先や進路先を検討していきたい。

・統合するときクラス替えはあるか

→ 現時点ではクラス替えは考えていない。

(2) 意見要望

・建て直しはきかないため、みんながこの校舎で学びたいと思える学校をつくってほしい。

・2学期制や45分授業について、地域や中学生に丁寧に説明する機会があるとよい。

・3科融合の新しい学びとあるが、一体新しい学びとは何なのか。言葉は素晴らしいが、言葉だけにならないようにしてほしい。

・45分だと最後の5分での授業のまとめが足りなくなるのではないかと。トータル時間も大事だが、1コマ50分の学びの保証も大事にしてほしい。

小諸新校に係る周知広報活動

県教育委員会・小諸商業高等学校・小諸高等学校

1 地域説明会

項目	期日	場所	対象 ※ () 内は参加人数
地域説明会	11/2 (木)	佐久平交流センター	中学生 (5)、保護者 (9)、その他 (7)
	11/6 (月)	上田市中央公民館	中学生 (1)、保護者 (6)、その他 (3)
	11/7 (火)	小諸市市民交流センター	中学生 (12)、保護者 (21)、その他 (31)

2 体験入学等

【小諸商業高校】

項目	期日	場所	対象 ※ () 内は参加人数
体験入学 (全日制)	8/2 (水)	小諸商業高校	中学生 (217)、保護者 (54)、中学校職員 (10)
体験入学 (定時制)	12/1 (金)	小諸商業高校	
クラブ体験	9/26 (木)、27 (金)	小諸商業高校	中学生 (50)
入試説明会 (全日制)	10/27 (金)	小諸商業高校	中学生 (5)、保護者 (12)
個別相談 (定時制)		小諸商業高校	中学生 (5)、保護者 (5)、中学校職員 (5)
入試説明会 (全日制)	11/24 (金)	小諸商業高校、オンライン	
入試説明会 (定時制)	11/2 (木)	小諸商業高校	中学校職員 (12)

【小諸高校】

項目	期日	場所	対象 ※ () 内は参加人数
体験入学 (普通科)	7/26 (水)	小諸高校	中学生 (226)、保護者 (58)
体験入学 (音楽科)	6/17 (土)	小諸高校	中学生 (74)、保護者 (73)
説明会 (音楽科)	10/7 (土)	小諸高校	中学生 (42)、保護者 (42)
受検講習会 (音楽科)	11/11 (土)	小諸高校	中学生 (36)
学校開放	10/14 (土)	小諸高校	中学生 (18)、保護者 (17)

3 中学校訪問

【小諸商業高校】

項目	期日	場所	対象
出前個別説明会			実施について各中学校へ周知 (11/14現在未実施)

【小諸高等学校】

項目	期日	場所	対象
個別中学校訪問	10/30 (月) ~11/17 (金)	各中学校	野沢、中込、浅間、東、望月、小諸東、芦原、軽井沢、御代田、立科、北御牧、青木、上田第三、上田第六 (希望のあった中学校のみ)

※希望のなかった中学校については「地域説明会資料」、「リーフレット」を送付

4 市町村教育委員会訪問

項目	期日	場所	対象
市町村教育委員会訪問	10/17 (火) ~10/30 (月)	各市町村	佐久穂、小海、川上、南牧、軽井沢、御代田、立科、上田、佐久、東御

5 諸会議 (主なもの)

項目	期日	場所	対象
中高校長代表者会	10/16 (月)	県庁	県中学校長会長、地区代表中学校長等
入学者選抜学校別説明会	10/16 (月)	上小教育会館	旧第5通学区中学校 (教頭)
	10/30 (月)	佐久教育会館	旧第6通学区中学校 (教頭)

6 その他

- ・「広報こもろ」(10月号)、ホームページ(県教育委員会、小諸商業高校、小諸高校)への情報掲載
- ・「KOSHO PUBLIC RELATION」(広報チラシ)への情報掲載
- ・長野市及び松本市の楽器店にリーフレット配架

新校名は「長野県小諸義塾高等学校(仮称)」

「小諸義塾」は、明治時代に高等小学校を卒業後も向学の念が強い青年たちのために地域住民や地元議会が資金を出し合って創立・運営された学校でした。閉校後に小諸義塾の校地校舎が現在の小諸商業高等学校、小諸高等学校の原点である旧町立小諸商工学校に転用された歴史があります。

地域から愛される学校、地域と共に育っていく学校にどの新校への願いや期待を象徴する校名として選定されました。

令和4年9月に公募し、応募いただいた校名候補案119件を基に、小諸新校再編実施計画懇話会において選定し、商標登録等の調査を行ったうえで最終選考を行い校名候補を決定しました。

この校名は本年5月に県教育委員会で決定されましたが、高等学校設置条例の改正をもって正式決定となります。同条例の改正は、開校前年の令和7年度に県議会で提案される予定です。

活用する校地・校舎は現小諸商業高等学校

(令和7年度末に完成予定)

NSD(長野スクールデザイン)プロジェクトにより、通学の利便性、小諸市の「多極ネットワーク型コンパクトシティ」のまちづくり構想と連動した基本計画となっています。

FLA(フレキシブル ラーニング エリア)を設けることにより、普通科、商業科、音楽科の生徒が自然に交流することができ3科が融合しやすい環境となっています。

音楽棟や音楽ホール、大体育館を新設する他、現在の校舎を改修する計画です。

また、地域連携協働室の創設により、地域と連携した学びがしやすいようになっています。



新校制服は標準服を導入予定



現在、小諸高校は私服、小諸商業高校は制服を着用しています。これまでに生徒・保護者や職員へのアンケートを行い、様々な意見を集約しました。

それらを踏まえて、新校では「制服」ではなく、「標準服」を導入し、生徒自身が選んで着用できるスタイルにする方向で検討を進めています。

具体的にどのような標準服になるのかは、これから決まっていますが、令和7年度入学生から、この標準服を導入したいと考えています。

小諸義塾高校(仮称) WG進捗状況

第17回懇話会資料

WG	検討項目	WG進捗状況
A: 学校運営 検討	校歌・校章	<ul style="list-style-type: none"> ・校歌は小諸高校音楽科卒業生に依頼済み ・校章はデザインをしてくれる方を検討中
B: 教務関係	学校説明会	<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会 実施済み <li style="padding-left: 20px;">11/2(木) 佐久平交流センター 第5会議室 <li style="padding-left: 20px;">11/6(月) 上田市中央公民館 大会議室 <li style="padding-left: 20px;">11/7(火) 小諸市市民交流センター ステラホール
	日課	<ul style="list-style-type: none"> ・45分授業日課の検討を始める。朝のSHR時間、固定の7時間目を月曜日にするか金曜日にするか。清掃時間、放課後SHRを入れるか等
	広報	<ul style="list-style-type: none"> ・小諸義塾高校通信の発行に向けて準備をすすめている ・HPでの情報公開ができるように準備を進めている
C: 進路・ 学習指導	教育課程	<ul style="list-style-type: none"> ・単位制、2学期制、31単位・45分授業×33コマ展開を決定 ・今後は探究プログラムをベースとした教科・学科横断型の学び、地域連携、本物に触れる学びについて検討を始め、教育課程の編成を始める。
	探究的な学び	
	地域連携	
	教科・学科横断型の学び	
	本物に触れる学び	
D: 校舎・ 施設	校舎・設備の建設	<ul style="list-style-type: none"> ・既存校舎改修工事の基本計画最終案作成中
	既存校舎の改修	<ul style="list-style-type: none"> ・ローリング計画の確認
E: 生徒会	部活動	<ul style="list-style-type: none"> ・R6年度から運動部は合同チーム結成が可能となるため、各クラブで検討を始め、生徒会係で集約を行う。 ・合同練習の開始時期、練習場所、指導体制などの検討を進める。
	文化祭	<ul style="list-style-type: none"> ・新生徒会役員により、来年度の文化祭の交流を検討している。
	服装(含:制服)検討	<ul style="list-style-type: none"> ・取扱い業者によるプレゼンテーションを実施し、業者を決定。 今後、生徒の意見を聞きながらデザインを決めていく。
F: 行事予定	修学旅行・研修旅行	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期制導入にともない、修学旅行・研修旅行の実施時期を検討

横内 日菜子



プロフィール

1998年 長野県安曇野市出身。

3歳より電子オルガン、15歳よりクラシックピアノを始める。

小諸高校音楽科を経て東京音楽大学作曲指揮専攻(作曲/映画・放送音楽コース)卒業。これまでに作曲を堀井勝美、梶場富美子、山下康介、小六禮次郎の各氏に師事。

アーティストやオーケストラのコンサート編曲を主軸に幅広く活動している。

2019年度より放送大学学園「生命分子と細胞の科学」番組テーマ曲を担当。

経歴

作編曲活動 — 2019～現在

山下康介氏アシスタント — 2020～現在

学歴

長野県小諸高等学校 音楽科 — 2017年3月卒業

東京音楽大学 作曲指揮専攻(作曲/映画・放送音楽コース) — 2021年3月卒業

作編曲参加一部（※詳細表記のないものについては編曲参加）

- ・ 放送大学学園「生命分子と細胞の科学」番組テーマ曲作曲
 - ・ 幻想水滸伝 Orchestra Concert Tour vol.2
 - ・ J-ROCK Symphonic Concert シリーズ
夏川りみ、藍井エイル、SILENT SIREN、柴田淳
 - ・ 三井不動産採用PR動画 音楽制作
 - ・ billboard classics シリーズ
大黒摩季、大原櫻子、柴田淳、鈴華ゆう子、中村雅俊、山崎育三郎
 - ・ 朗読劇「ラストダンスは私に」～岩谷時子生誕105年記念～
 - ・ Brand New Musical Concert シリーズ
 - ・ 東京ニューシティ管弦楽団 Winter Srenade in Tokyo
 - ・ STAND UP! CLASSIC オペラ・ミュージカル新春歌合戦
 - ・ 少女☆歌劇 レヴュースタァライト オーケストラコンサート
 - ・ Japan Musical Festival
 - ・ 手越祐也シンフォニックコンサート2023
 - ・ singsジブリ2023
 - ・ STAND UP! FES のだめカンタービレCLASSIC DAY
-

学校視察報告 令和5年11月15日(水)～16日(木)

【視察団】小諸高校：井村敏明、新井雅人、木住野修平 小諸商業高校：原周一郎、古見拓郎

専修大学北上高等学校(岩手県)

【視察目的】

- ① 普通科におけるコース制について
普通科5クラスを「DL(ディープラーニングコース)」「AL(アクティブラーニングコース)」に分け、さらにそれぞれのコースを特徴のある計5つの専攻に分けている。
- ② 探究プログラム「SENTAN」について
総合的な探究を授業時間内に明確に位置付け、地域連携や協働する学びを実践している。

【学校について】

- ① 普通科・グローバルビジネス科・メカニックエンジニアリング科の3科併設校。
- ② 国公立大学や難関私立大学をはじめ、専門学校や就職など、幅広い進路希望がある。
- ③ 男女サッカー部、硬式野球部、卓球部など、全国レベルの部活動がある。

【視察内容について】

- ① 普通科での学び
 - ・1年次は授業進度や教材など、DL・ALともにそれほど差はない。
 - ・「DL=進学」という進路先とコースが直結する考え方ではなく、どちらのコースに在籍していても進みたい進路を保証する。
 - ・ベースとなる考え方として、専攻の違いは「学び方の違い」である。コースや専攻ごとに「何を学ぶか」が異なるわけではなく、それぞれのコースや専攻ごとの特徴によって「どう学ぶか」が異なる。
 - ・5つの専攻それぞれにメンター(大学教授など)がいる。
 - ・「情報ビジネス専攻」では商業科目履修できる。また、専北マルシェも手伝う。
- ② 探究活動について
 - ・全生徒が活動する探究が「SENTAN」。週1時間設定し、正副担任など多くの教員が関わる。
 - ・内容は大きく分けて、1年前期、1年後期～2年前期、2年後期～3年前期、3年後期の4期。
 - ・1年後期～2年前期と2年後期～3年前期は、学年をまたいでゼミを行う。生徒は希望するゼミを選択し、1年間かけて探究活動を行う。グループ分けはクラスの枠組みをはずして行い、部活や出身中学なども考慮しながら、できるだけ普段関わりのない生徒と活動を行えるようにする。
 - ・「SENTAN」は3科合同で活動を行うため、ゼミでの交流が生まれる。ダイバーシティラーニングとしても重要な意味合いがある。
 - ・2年次以降「DLコース・PBL専攻」は、さらに週4時間の探究(Socio)を行い、活動を深める。
 - ・Socioでは教科書として2種類の教材を使用している。
 - ・探究担当(教員)が3名おり、学校コーディネーターと随時打ち合わせをしながら授業を構築する。学校コーディネーターの役割は大きく、教員だけでは探究活動を構築するのは難しい。

【その他】

- ① HRについて、DLコースは専攻ごと(3クラス)、ALコースは専攻で分けずにミックスHR。
- ② ミックスHRにしているため、クラス内に学力差があることから、シラバスに基礎・標準・発展の3つの到達目標を明記している。
- ③ 課外活動(放課後や長期休業)の学びの場として「専北塾」がある。受験に必要な進学補習だけでなく、生徒の知的好奇心を育てる内容(受験と関係ない数学など)でも実施している。市議員など外部講師に依頼することもある。

ふたば未来学園高等学校（福島県）

【視察目的】

- ① 双葉みらいラボについて
地域協働スペースとして、校舎の真ん中に設置されている。生徒の居場所、学びの場、地域の方々との交流の場としての機能を持っている。
- ② 未来創造探究について
高校3年間を通して、8単位を探究として授業内に位置付けている。

【学校について】

- ① 東日本大震災を機に、福島県双葉町に5校あった県立高校の伝統や教育内容を受け継ぐ形で2015年に開校した。
- ② 中高一貫校（1学年：中学生60名、高校生160名）。総合学科として生徒募集を行い、3つの系列（アカデミック・トップアスリート・スペシャリスト）に分かれる。
- ③ 国公立大学や難関私立大学をはじめ、専門学校や就職など、幅広い進路希望がある。
- ④ バドミントン部をはじめ、男女サッカー部やレスリング部など、全国レベルの部活動がある。

【視察内容について】

- ① 双葉みらいラボ
 - ・「カタリバ」スタッフが常駐している。インターンシップ（大学生）もおり、「ナナメの関係」を大切にしながら、探究活動や学習支援（20時まで開放）を行うこともある。
 - ・「Caféふう」があり、昼間はスタッフ（アルバイト等）が対応し、放課後は社会企業部の生徒が部活の一環として経営に携わっている。経営母体は一般社団法人として登録し、生徒も理事として入る。販売されているお菓子は食品製造を学んでいる生徒が製造している。子ども向けイベントを生徒自身が企画開催することもある。
 - ・地域協働スペースの隣に図書館が併設されており、一般の方も閲覧のみだが利用可能となっている。地域の人にも開かれた空間作りに寄与している。
- ② 未来創造探究
 - ・1年次前期では、双葉郡でのフィールドワークを通して震災時のことや教訓を学ぶ。また、復興に向けた課題を調査し、その課題を演劇として表現する。
 - ・1年後期から3年生にかけて、6つのゼミに分かれて地域課題解決の探究活動を行う。この活動では、調査研究だけではなく、解決に向けた「実践」（未来創造プロジェクト）を行う。
例：Let's Cheer Up ふたば！、みらい防災、なぜ海洋放出に反対運動が起こるのか など
 - ・常時約300のプロジェクトが進行している。
 - ・希望者による海外研修を実施。ドイツではSDGsについて考察を深めたり、ニューヨークでは生徒国際会議への参加を経て国連本部で「福島の実状」を報告したりした。
 - ・卒業時のアンケートでは「社会とどう関わっていくかを見出した」という質問に対して85%以上、「自分の価値観を考えることにつながった」という質問に対して82%以上の生徒が「学校での学びが影響を与えた」と回答している。

【その他】

- ① 探究活動を通して、大学入試という意味合いでは成果があるが、生徒の主体性にはまだ課題がある。ただ、進学後に地元に戻ってくる生徒も多く、故郷を大切にしたいという想いは根付いてきている。
- ② アカデミック系列は未来創造探究を含め週35単位実施。トップアスリート系列は週10単位をスポーツとして実施。系列によりクラブ活動（特に運動部）への制約は大きい。
- ③ 学校施設（ホールの使用方法やロッカーの配置、職員室等）について参考になる点が多い。

「新しい普通科」について



学び応援キャラクター「信州なび助」
©長野県教育委員会信州なび助

令和5年11月29日 小諸新校再編実施計画懇話会
県教育委員会事務局 高校教育課 高校再編推進室

高校普通科改革とは？

高校の学科と生徒数

普通科

各教科を
幅広く学ぶ

74%

専門学科

農業,工業,商業,理数,
音楽などをそれぞれ
専門的に学ぶ

21%

総合学科

普通・専門両方の
科目を選択して学ぶ

5%

高校普通科改革とは？

高校の学科と生徒数

普通科

新しい学科
= 「新しい普通科」

74%

専門学科

農業,工業,商業,理数,
音楽などをそれぞれ
専門的に学ぶ

21%

総合学科

普通・専門両方の
科目を選択して学ぶ

5%

高校普通科改革とは？

「新しい普通科」

普通科

新しい学科
= 「新しい普通科」

学際領域学科

(学際的な学びに重点的に取り組む学科)

地域社会学科

(地域社会に関する学びに重点的に取り組む学科)

その他普通科

(その他特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科)

高校普通科改革とは？

「新しい普通科」

学際領域学科

SDGsの実現や**Society5.0の到来に伴う諸課題**に対応するために、学際的・複合的な学問分野や新たな学問領域に即した最先端の特色・魅力ある学びに重点的に取り組む

地域社会学科

高等学校が立地する地元自治体を中心とする**地域社会が抱える諸課題**に対応し、地域や社会の将来を担う人材の育成を図るために、現在及び将来の地域社会が有する課題や魅力に着目した実践的な特色・魅力ある学びに重点的に取り組む

その他普通科

その他普通教育として求められる教育内容であって当該高等学校のスクール・ミッションに基づく特色・魅力ある学びに重点的に取り組む

高校普通科改革とは？

「新しい普通科」の要件

1 各教科・科目等の履修については以下のとおりとすること

ア 各学科の特色等に応じた学校設定教科・科目を設け、2単位以上をすべての生徒に履修させること

イ 上記アの学校設定教科・科目及び総合的な探究の時間を合計 6単位以上履修させること

ウ 上記アの学校設定教科・科目及び総合的な探究の時間を各年次にわたり履修させること

2 学際領域学科においては、大学等の連携協力体制を、地域社会学科においては、地域の行政機関等との連携協力体制を整備すること

3 学際領域学科及び地域社会学科においては、関係機関等との連携を行う職員の配置その他の措置を講じるよう努めること

普通科改革のねらい

学科数で5割以上、生徒数で7割以上を占める普通科

現状

「普通」の名称から生じる
一斉的・画一的な学びの印象

学校の特色や教育内容ではなく、
偏差値をもとに高校を選ぶ

現状

多くの生徒が文系・理系にわかれ、特定の教科について十分に学習しない傾向

大学受験や就職に関係ない（と考える）
教科・科目への意欲が低下

「新しい普通科」の例

所在地	校名	設置学科	教育課程の特色
京都市	開建高校	地域社会学科 (ルミノベーション科) 令和5年度設置	広い学習空間・ラーニングポッドによる 自由な発想で学べる環境づくりや、魅力 あふれる京都をフィールドにした探究活 動の実施
島根県	隠岐島前高校	地域社会学科 (地域共創科) 令和4年度設置	離島発「グローバル人材」育成のための 「教科・探究学習が有機的に融合したカ リキュラム」
長崎県	松浦高校	地域社会学科 (地域科学科) 令和4年度設置	「松高キャリア・プランニング」や「ま つナビ・プロジェクト」(地域課題解決 型学習)における探究活動等による、地 域社会の未来を担うリーダーの育成

※上記3校を含め、10校に「新しい普通科」が設置されている(令和5年4月時点、文部科学省調べ)

長崎県立松浦高校 地域科学科 (新しい普通科)

地域社会の未来を担うリーダーの育成

育成したい
資質・能力

生きて働く
知識・技能

情報収集・テーマ設定力

プレゼンテーション力

思考力・
判断力・表現力

論理的思考力

コミュニケーション力

学びに
向かう力

キャリア形成力

ふるさと貢献力

アカデミーコース

国公立大学 (文系・理系)
私立大学 受験対応

ベーシックコース

私立大学(文系)・短大・専門学校
受験、公務員・一般就職対応

- ・ **少人数**授業による一人一人に応じた指導
- ・ ICTの利活用による**対話的な学び**
- ・ 地域課題解決型学習「まつナビ」の成果を活かした**大学入試への挑戦**
- ・ **ポートフォリオ・ルーブリック**を活用した主体的な学習者の育成

大学・専門学校の出前講義

大学生とのコラボ

地域リソースを活用した学び

基礎学力と実践力の養成

松高への入学

松浦高校での多様な学び

